



第6回（2021年度）日本アレルギー学会 働き方改革推進奨励賞受賞者

日本アレルギー学会では、ワーク・ライフバランスの向上に関する経験や工夫は全ての学会員に有用であると考え、2016年度より「奨励賞」を設け、男女共同参画の理念も含めた働き方改革活動を積極的に推進している学会員、または所属機関を表彰・広報しております。2021年度、第6回日本アレルギー学会働き方改革推進奨励賞は、学会員及びその所属団体を対象に、学会誌及び学会ホームページにて公募し厳正なる選考のうえ、2022年3月25日の理事会において下記の通り受賞者を決定いたしました。受賞式は、本年10月8日、第71回学術大会時の働き方改革推進委員会企画セミナー内にて行われる予定です。

受賞者

稲毛英介先生（順天堂大学医学部小児科学講座）

稲毛先生は、「順天堂小児科ダイバーシティクラブ」を立ちあげ、その事務局として、各病院の勤務時間や当直体制の把握とその問題点の解消方法についての講演会の実施、若手キャリア形成のための研究グループカフェの企画等、働き方改革の推進に努めています。また、日本の小児アレルギー関連のガイドラインに於けるジェンダー格差を取り上げた英文論文を執筆するなど、アレルギー診療・研究の課題の解決に向けて実践的な取り組みも行っておられます。今後のアレルギー領域の発展にも貢献できると期待されます。

高村悦子先生（東京女子医科大学眼科学講座）

高村先生は、当学会で、Allergology International 編集委員、アレルゲン・免疫療法委員や、学術大会のプログラム委員など多くの委員を経験されており、長きにわたり貢献されてきました。また、東京女子医科大学病院においても、女性医師再研修部門の責任者として、女性医師の離職防止に努められてきました。アレルギー診療に携わる若手医師や女性医師が、仕事を続けられるよう長年にわたりご尽力されてこられました。